

③「ニーズを掘り起こす」

2011年3月11日午後2時46分の巨大地震発生と同時に、仙台市の陸上自衛隊東北方面総監部の君塚栄治総監（現陸幕長）の電話が鳴った。「増援部隊を送る。しっかりせい」と、東京・市谷の防衛省執務室から激励の言葉。しかしすでに陸路、線路共に寸断され輸送手段は船しかないが、「2日間は出せない」と、海上自衛隊からの苦渋の連絡が。何と海自の大型輸送艦3隻のうち2隻は海外派遣と修理中で、残る1隻は多方面へすでに出動中という。

結局、北海道旭川師団の隊員260人と車両86台がフェリーで到着したのは地震発生から30時間後。君塚司令官と自衛隊員らの苦闘が始まった。その後、君塚氏は急遽編成された災統合任務部隊指揮官として陸海空自衛隊10万人を見事に指揮、「これをやればもっと被災者に喜ばれるはず。」とリアリティーを持って積極的にニーズを掘り起こすことを心がけ、未曾有の大震災の第一線で働いた。彼の元に応援に駆けつけたハリソン在日米陸軍司令官も「ニーズというものは集まりにくい。こちらから働きかけないと後手に回る。」と相手の必要を強く案じていたのを見て、キリストの言葉

「自分の子がパンを下さいと言うときに、誰が石を与えるでしょう。また、子が魚を下さいと言うのに、誰が蛇を与えるでしょう。してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さないことがありますよう。それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。」マタイの福音書7章9-12節

を思い出した。神は求める者のニーズに常に答えてくださるが、我々もまた人のニーズに答えること、それが打算のない本当の愛である。

2013-3-24



